

新型インフルエンザ・ワクチン接種スケジュールについて

下記のとおり、兵庫県の接種スケジュールが決定しましたのでお知らせします。

■ワクチン接種スケジュール

	対象者	接種開始予定日
1	医療従事者、基礎疾患を有する者、妊婦、1歳から小学生に相当する年齢の小児、1歳未満の小児の保護者等	既に開始済み
2	中学生、高校生に相当する年齢の者、高齢者（65歳以上）	1月8日から
3	上記優先接種対象者等以外の健康な成人（※）	1月下旬以降（詳細は今後決定）

接種を希望される方は、かかりつけ等医療機関（市外でも可）に、まず電話でご確認ください。

（※）輸入ワクチンの出荷状況に応じて接種開始日は今後決定されます。

■接種回数・料金

1回接種／医療従事者、基礎疾患を有する者（※1）、妊婦、1歳未満の小児の保護者等、中学生（※2）、高校生

※1 著しく免疫反応が抑制されている者は、2回接種も差し支えない。

※2 接種時に13歳になっていない者については、2回接種とする。

2回接種／1歳から小学生

料 金／1回目 3,600円 2回目 2,550円（1回目と異なる医療機関の場合 3,600円）

■料金の助成について

表中1・2の対象者で、生活保護世帯及び平成21年度住民税非課税世帯に属する方の料金助成申請の受付を開始します（全額助成）。該当する方は加西市役所国保健康課へ3月末までに申請してください。（平日9:00～17:00）

※接種できる医療機関等詳細は、広報かさい11月号または、市ホームページをご確認ください。

【問合せ】 国保健康課 ☎8723

幼稚園・小・中・高校生のみなさん、予防接種は受けましたか？

幼稚園・小・中・高校生で受ける予防接種は、乳幼児期に受けた予防接種の追加接種です。追加接種を受けることで感染症の予防効果が高まりますので、忘れずに接種しましょう。

対象者	予防接種名
幼稚園の学年 （平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれの者）	麻しん・風しん混合予防接種
小学校6年生 （11・12歳の者）	二種混合予防接種
中学校1年生 （平成8年4月2日～平成9年4月1日生まれの者）	麻しん・風しん混合予防接種
高校3年生 （平成3年4月2日～平成4月4月1日生まれの者）	

接種場所／市内予防接種指定医療機関（接種前に予約を兼ねて、直接医療機関にご確認ください）

接種時期／3月31日まで

接種費用／無料

必要物品／母子健康手帳・体温計・健康保険証（本人確認のため）※予診票は医療機関にあります



【問合せ】 国保健康課 ☎8723

自立支援医療（精神通院）の診断書の提出が2年に1度に（4/1～）

自立支援医療（精神通院）受給者証の更新は現在1年毎で、その都度診断書の提出が必要ですが、有効期限が平成22年3月31日以降の場合は、更新の際の診断書の提出が2年に1度に緩和されました。今後、更新手続きをされる方は、診断書が必要かどうか、下記担当にご確認ください。

なお、新規・再申請（有効期限切れ）の場合は、診断書の提出が必要です。

【問合せ】 社会福祉課障害者支援担当 ☎8725 FAX④1801

加西病院のコーナー

加西病院WEB サイト <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp/>

『パラダイムシフト（時代規範の変化）』

■全部適用になりました



加西病院は平成21年12月、地方公営企業法の全部適用を受けました。

院長を勤めて6年が経とうとしています。加西病院は昨年末、市から“地方公営企業法の全部適用”という法規定を頂きました。私営企業法は一旦退職し、改めて病院事業管理者兼院長という職に就きました。法律は難しい言葉で書かれていますが、簡単に言えば“病院運営の物事を決められる範囲が広がって、その分責任も増えた”と云うところです。これまでの役目と大きく異なる訳ではありません。

■院長の役割

私は、院長は病院内の人と人、部署と部署、内部と外部の調整役と思っています。いわば病院医療が上手く回るための潤滑油です。

医療はその大部分が人の努力によって担われる業務です。しかも独立した専門性をもつ多数の職種がチームワークで一人の患者さんに当たります。協力が良ければ大きな力を発揮しますが、一部が軋みだけでも全体の力は落ちてしまいます。

幸い、加西病院の職員の協力体制は素晴らしいものがあります。気持ちの良い連携で患者さんの問題が解決されてゆくのを見ると、この病院で潤滑油を果たせることの冥利を覚えます。

■公と民

ところが、良い院内関係で動く加西病院にも悩みがあります。経営です。ご存じかどうか、加西病院は全国の自治体病院の中でも実質収支は良い方に属します。しかしこれまでの繰入金不足などから、経営基盤に弱さがあります。

世間には、経営について“公”は非効率で正すべきもの“民”は見習うべきお手本、とする通念があります。総務省の“公立病院改革ガイドライン”もこの通念の産物です。経営不振の自治体病院は民間手法を用いて

経営改善すべし。改善しないなら独法化・民営化・統廃合・診療所化するべし、という指針です。

■素朴な疑問

医療はサービス業だ、と聞かされます。確かに病院も、利用される／されないの選別を受けます。評価が落ちると患者が減り、経営が傾くでしょう。

サービス業なら経営が成り立たなければ事業を閉めるだけのことです。市内の店舗でも少し客足が遠いよ、うだと思ったら、いつの間にか休業の張り紙が出ています。しかし、病院は経営が悪いと閉めればよいものなのか、素朴な疑問を感じます。

■社会保障か市場主義か

経営不振だからと言って病院を廃止すれば、銚子市や松原市のように深刻な衝撃が地域を覆います。ここには、医療はサービス業ではなく社会保障だという考え方と、経営の成り立たない事業は止めて当然という考え方の衝突があります。どちらも一理ある主張です。

もちろん、病院が信頼され、患者が集まり、経営が順調であれば一番良いのです。けれども僅かなぎっかけで医師や看護師を失い、一挙に機能不全に陥って経営破綻する自治体病院が後を絶ちません。政府やメディアも、社会保障と市場主義の間を行ったり来たりしているように見えます。

■パラダイムシフト

このように、時代の規範（パラダイム）が自明でなくなった時パラダイムシフトが求められます。しかしまだ、勤務医不足や医療の限界による医療崩壊を再生する潮流の転換は現れていません。病院を守る住民運動や分娩無過失賠償制度はその萌芽かもしれないと思います。

加西病院は“人を育てる”ことを大切にしています。研鑽で職能を高め、臨床研修医や若い医療者を教育し、遣り甲斐ある職場を作ることで困難を乗り越えたい。パラダイムシフトは時代の流れが変わることであり、個別の対応を指す言葉ではありませんが、加西病院は全部適用の機動性を活かしてこの目標に挑戦したいと考えています。

（病院事業管理者兼院長 山邊裕）

■選挙制度120周年記念兵庫県選挙管理委員会特別表彰

加西市明るい選挙推進協議会会長の内田徹さん（琵琶甲町）が、長年の加西市での明るい選挙の推進に尽力されたことが評価され、井戸兵庫県知事から表彰を受けました。

問合せ／選挙管理委員会事務局 ☎8781

受賞された内田会長

